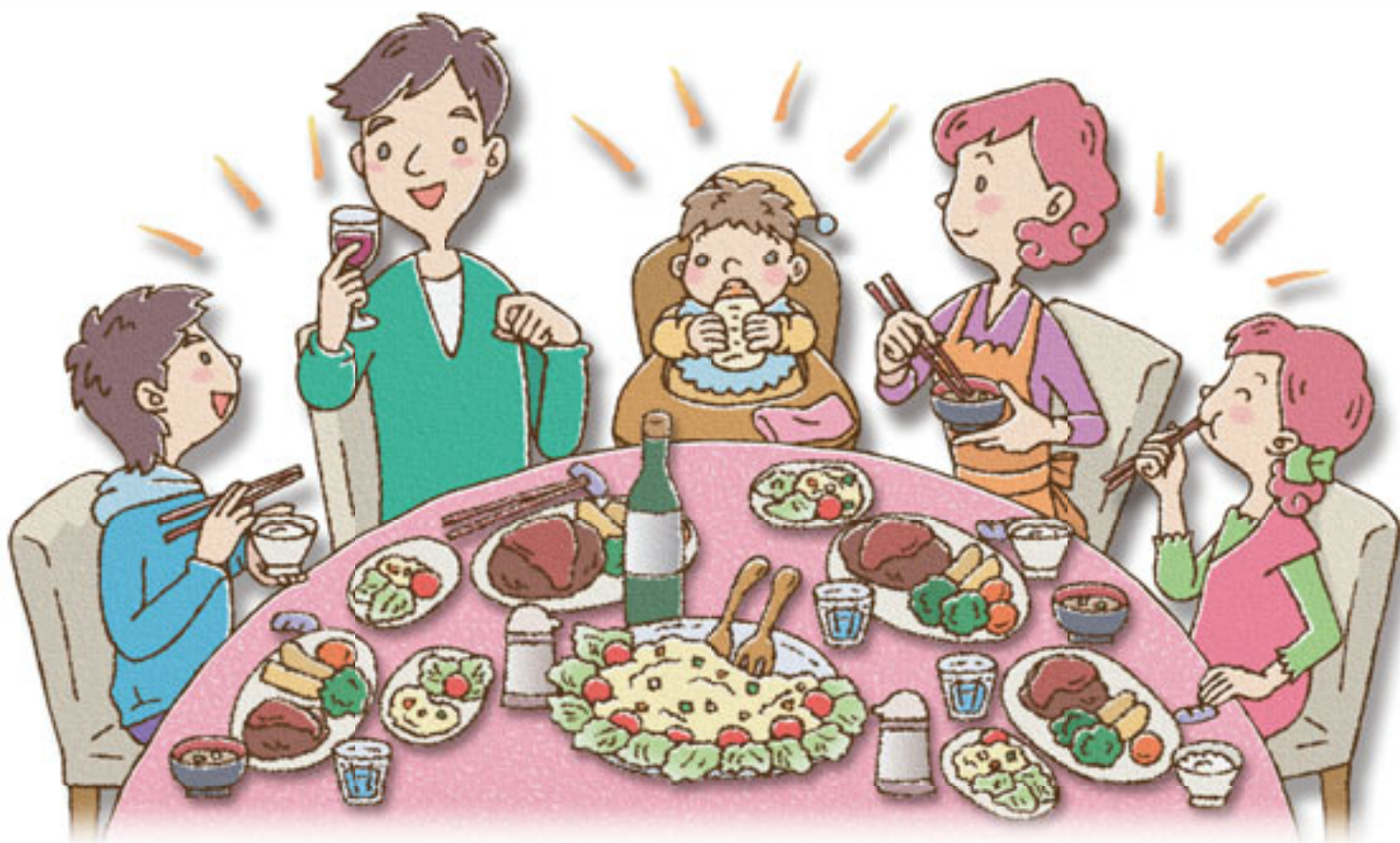


やまなし食育推進計画

概要版



山梨県

計画策定の趣旨

近年、生活水準の向上による食の多様化が進展し、また誰もが日々忙しい生活を送る中で、「食」の大切さに対する意識は希薄になり、健全な食生活が失われつつあります。

このような中、平成17年7月、食育を国民運動として推進していくため、「食育基本法」が施行されました。

本県でも、次世代を担う若年層で、朝食の欠食等の不規則な食事や過度の痩身志向が見られるなどの問題が指摘されています。

平成18年3月に策定された国の「食育推進基本計画」に基づき、食育に係る施策を総合的かつ計画的に推進するため、「やまなし食育推進計画」を策定しました。

基本理念と基本目標

基本理念

山梨の風土や文化等の特性を生かしながら、「食」の大切さの意識を高め、健全な食生活の実践と豊かな人間性を育てます。

基本目標

全ての県民が、生涯を通じて心身ともに健康で生き生きと暮らしていくことを目標とします。

計画期間

平成18年度から平成22年度までの5年間

計画期間中に状況の変化が生じた場合には、必要に応じ見直します。

食育の定義

生きる上での基本であって、知育・徳育及び体育の基礎となるべきもの
様々な経験を通じて「食」に関する知識と「食」を選択する力を習得し、健全な食生活を
実践することができる人間を育てること

基本方針

基本方針1

家庭、学校、保育所、地域等社会の様々な分野の関係者が連携して食育に取り組み、生涯にわたって健全な食生活を実践できる人づくりを推進する。

基本方針2

「食」の安全が保たれるとともに、社会の様々な分野の関係者が連携して食育に取り組み、豊かな自然、豊富な特産物、固有な食文化等を生かした、「食」を安心して楽しむ心豊かな社会の実現を図る。



食を巡る現状

食生活

◎朝食の欠食	20・30歳代男性の1/4が朝食を欠食 欠食している人は、男女とも20歳代が最多[全国]
◎エネルギーの栄養素別構成比 (PFCバランス)の推移	炭水化物の摂取割合が減少し、脂質が増加してきている
◎食塩摂取量	全年代において、全国と比較して食塩の摂取量が多い 50歳代以上は1日12g以上も摂取(目標摂取量10g未満)
◎野菜摂取量	60歳代以外の年代で摂取不足(目標摂取量350g) 20~40歳代では1日約100gも不足
◎肥満とやせ	40歳代男性の肥満は17.6%、50・60歳代と多くなっている 女性の「やせ」は30歳代まで高率 体型の認識では「太っている」と思っている人の割合が高い
◎糖尿病の状況	糖尿病有病者は平成13年から17年で約16%増加(国民健康保険)
◎生活習慣病による死亡の状況	死亡要因の上位は生活習慣病(がん・心疾患・脳血管疾患)
◎世帯における食品ロス率	家庭の食品ロス(食べ残し・廃棄)率は4.2%[全国]

農林畜水産業の状況

◎農林畜水産業の状況	土地生産性は全国上位 農業産出額の割合 果実61.5% 野菜13.1% 畜産9.3% 農村女性グループ等が地域食材による郷土料理や特産品づくり
◎地産地消の状況	産地直売所の地場農産物販売割合 51.9% 農産加工場の地場農産物仕入割合 80.8% 給食に地場農産物を使用した学校の割合 94.6% いずれも取扱量を増やしていく意向が高い

食の安全に対する意識

◎農畜水産物を購入する際の重視点	「価格」よりも「鮮度」「安全性」を重視
◎食品を購入する際の意識点	「安全性」の全項目に意識が高い

食育に対する意識

◎食育への関心度	関心がある人は約90%
◎食育に関心がある理由	食生活の乱れ 子供の心身の健全な発育 生活習慣病の増加 等

重点目標

朝食を欠食する人を減らそう

～朝ごはん しっかり食べて 元気な一日～

朝食をしっかり食べることは、生活のリズムの向上を図るとともに、睡眠中に欠乏する血液中のブドウ糖を補い、体力・気力の低下を防ぎ、健康的な一日を過ごす基本となるものであるという知識の習得を推進。

学校・保育所等、地域・職域関係者及び行政が有機的に連携し、家庭・地域における取組を展開。

バランスのとれた食事を実践しよう

～品数多く 塩分控え 腹八分～

栄養の偏り、過剰な塩分摂取や野菜摂取量の不足等の課題解決に向け、地域全体でのバランスのとれた食事の実践を推進。

食生活の改善指導等、各地域における課題に沿った取組を進めるとともに、日本型食生活の実践を促進。

食生活指針や「食事バランスガイド」を活用し、「食事」の基本を普及・啓発。

「食」に対する感謝の気持ちを醸成しよう

～感謝をこめて いただきます ごちそうさま～

農林畜水産業の生産現場を実際に体験・経験する機会や生産者との交流の機会を促進するための取組を推進。また、市町村における教育ファームの推進を支援。

家族のために健康に良い食事を親子で作るなどの家庭料理の推進。

学校給食等への地元農林畜水産物の使用を促進。地域の生産者との交流、農業体験学習等の時間を通して、「食」に対する感謝の気持ちを醸成。

農林畜水産物の地産地消県民運動を推進しよう

～うまいもんだよ 新鮮・安心 地元の食材～

地元で収穫された新鮮で安全な農林畜水産物を安心して食べる地産地消を推進し、県民運動として更なる定着を図る。

地域で育ててきた伝統的な食文化を次の世代に伝えていくため、学校給食における子どもへの郷土料理の提供や特産加工品生産の取組等を推進。

本県の豊かな自然と観光資源に恵まれた条件を生かし、多くの観光客に特産物を提供する取組を推進。

食育への関心を高め、県民運動として推進しよう

～食育で 心も健康 体も健康～

「食育」を県民運動として推進し、県民一人ひとりに実践してもらうため、県民への普及・啓発。

食生活の改善活動を地域で行うボランティアの育成。また、市町村における食育推進のための計画づくりを支援。

市町村・各種団体等と連携して取り組み、県民運動としての食育を効果的に推進。

具 体 的 な 取 組

家庭・地域での食育の推進

家庭での食育環境づくり

生活のリズムの向上、健全な食習慣や正しい食に関する知識の習得等の施策の推進



食育教室
親子の体験学習
男の料理教室
家庭教育手帳
健康相談
など

地域での食育推進活動の推進

食事バランスガイドの普及や関係団体等の自発的な取組支援等の施策の推進



食育関係者の研修
出前出張講座
生活習慣病予防講習会
食品関連事業者等の食育促進
など

地産地消の推進と食育の県外への発信

地産地消の推進

地元で生産された新鮮で安全な農林畜水産物をその地元で消費する運動の推進



地場農産物等供給体制整備
地産地消サポーター
県産食材の日
ふるさと特産品フェア
など

生産者と消費者の交流の促進

食生活が自然の恩恵などに支えられていること等の理解を深める施策の推進



農村高齢者による知恵・技・経験の伝承
教育ファーム推進計画
農産物等加工体験
市民農園・体験農園
など

食育推進体制の整備と県民運動の展開

食育推進体制の整備

山梨県食育推進協議会の設置、食育関係者との連携・協力体制の整備



山梨県食の安全・食育推進本部
市町村計画の策定支援
山梨県食育推進協議会
健康づくりモデル事業
など

情報の発信・共有

県民の食への意識の啓発や、食生活で活用できる情報の共有の推進



意見交換会
食中毒防止講習会
生活情報誌かいじ号
食品表示110番
食品表示ウォッチャー
など

学校・保育所等での食育への取組の推進

学校・保育所等での食の指導充実

給食を生きた教材として食育に生かす
施策等の推進



学校における食育
基本方針・指導計画書
栄養教諭の配置
教職員・保育所長等の研修
個別指導・集団指導
など

家庭・地域と連携した体験学習の推進

農業者等との交流などにより、子どもたちが
食の大切さや楽しさを実感できる施策の推進



給食献立表
給食だより
学校給食試食会
先進的農業の視察
牧場での実習
など

食育の県外への発信

地元でとれた農産物
等でもてなすなど、
山梨の食育を県外に
発信する施策の推進

山梨の特選農産物
観光産業等との協働
山梨おもてなしの食
グリーンツーリズム
ワインキャンペーン
など

食文化の継承と発展

優れた食文化を継承し、
時代にふさわしい
食文化や豊かな味覚を
育むための施策の推進

親子料理教室での
郷土料理の活用
郷土料理集の提供
食育ホームページ
イベントでの郷土料理紹介
など

環境に配慮した食料生産等の推進

環境に配慮した食料生産等の推進

環境への負荷の低減や環境と調和のとれた
持続可能な農林業に関する施策の推進

【化学合成農薬・化学肥料3割以上削減】



環境保全型農業の普及
エコファーマーの育成
甲斐のこだわり
環境農産物
エコクッキング事例
など

食育活動者の育成

食育推進ボランティア活動の支援や
県内優良事例の表彰などを通じた県民意識の高揚



食の安全・食育推進大会
やまなし地産地消推進大会
での表彰
食育推進ボランティア等
の研修会・活動支援
など

食育推進活動の普及・啓発

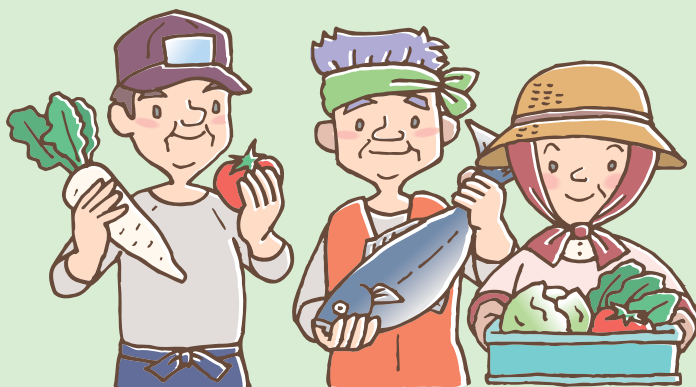
食育月間や食育の日での広報活動、
各種イベント等での食育の普及活動



食育月間・食育の日
での啓発
食育推進シンポジウム・
イベントでの啓発
やまなし食育事例集
など

数値目標

指 標	基準値	目標値 平成22年度
1 朝食の欠食率（小学校高学年）	平成16年度 2.1%	0%
2 朝食の欠食率（男性20歳代）	平成16年度 25.0%	15%以下
3 朝食の欠食率（男性30歳代）	平成16年度 25.0%	15%以下
4 脂肪エネルギー比率（20～40歳代）	平成16年度 27.4%	25%以下
5 一日の食塩摂取量（20歳以上）	平成16年度 13.2g	10g未満
6 一日の野菜摂取量（20歳以上）	平成16年度 304.5g	350g以上
7 学校給食における県産食材の使用割合（重量ベース）	平成16年度 31.7%	35%以上
8 教育ファームの取組がなされている市町村の割合	—	60%以上
9 地産地消サポーター数	平成17年度 1,022人	1,200人以上
10 産地直売所の登録販売者数	平成17年度 9,412人	10,500人以上
11 食育の推進に関わるボランティアの数	平成17年度 4,694人	5,170人
12 食育推進計画を作成・実施している市町村の割合	—	100%



山梨県企画部県民室 食の安全・食育推進室

〒400-8501 甲府市丸の内1-6-1

電話 055-223-1588 食品安全110番 055-223-1638 ファックス 055-223-1587

ホームページ <http://www.pref.yamanashi.jp/barrier/html/kmin-shoku/index.html>

E-mail shokuhin-st@pref.yamanashi.lg.jp